ドンキーオーキッドの開花について

世　羅　徹　哉

オーストラリアには約107属660種の野性ランが分布し，その内70％は固有種である。特に地生ランには花の形が特異で興味深いものが多い。この中で Pterostylis, Diuris, Caladenia, Chiloglottis 属などは，オーストラリアのナーセリーで増殖された株が比較的容易に入手でき，しかも温室などの設備がなくても栽培可能なことから，趣味園芸の新しい対象として期待できる。当園でも1983年以来数回にわたってこれらの種を導入し，栽培を試みている。

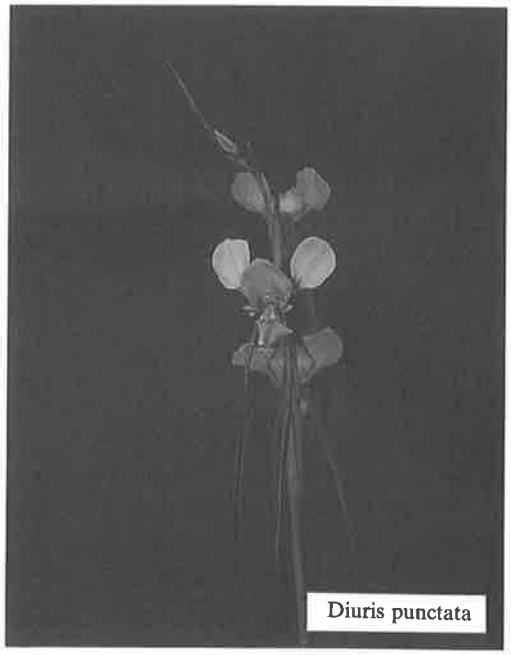
Pterostylis 属の一部の種はすでに展示に供しているがこの度，パープル　ドンキー　オーキッドと呼ばれる Diuris punctata Smith が初めて開花したので記録する。

今回開花したのは，オーストラリアのネスビット　ナーセリーで増殖されたものを1992年1月に導入した株であった。導入時は現地の休眠期（夏期）であったため細長い紡錘形の塊根が送られてきたが，植え付け後室温10～25℃，約30％遮光の温室内でかん水を続けたところ出芽し，葉を展開した。花茎は見られず，5月下旬に地上部が枯れ始めたためかん水を止め，乾燥状態のまま冷暗所で休眠させた。9月中旬からかん水を再開した。2年目以降は冬季の置き場所を，凍らない程度に保温したビニールハウス内に変更し，夏期には同様に乾燥状態で休眠させた。なお，用土には硬質赤玉土，日向土，ネオソフロンの各小粒を等量で混合したものを用い，4号駄温鉢に植え付けた。葉を展開しはじめてからは，鉢土の表面にマグアンプKの中粒を約10粒置き肥した。

初めて花茎を伸ばしたのは1995年3月で，同4月中旬から合計4花が約3週間開花した。4月30日に測定した開花株の外部形態は次の通りであった。

草丈は360㎜，茎は草質で直径約2㎜。葉は3枚あり線形，樋状に上面が凹み長さ270㎜，幅7㎜，花は4個。最大のものでは，自然開張状態で24㎜×84㎜（幅×長さ，以下同じ）。上がく片は楕円形で14㎜×15㎜，紫色。側がく片は線形で3㎜×68㎜，緑色がかった茶色。花弁は基部が細く柄状となる楕円形で12㎜×20㎜（柄は長さ5㎜）。紫色で，柄状部はより濃色。唇弁は3裂しており，11㎜×14㎜，紫色で，濃淡の斑模様がある。中央裂片は扇形で縁が強く反転し，側裂片には不整鋸歯がある。

Diuris 属には約40種が知られ，大部分はオーストラリア原産である。総称してドンキーオーキッドと呼ばれるように花形がおもしろい。本種は大きな花をつけ，紫の他に白，黄などの花色があり，最も美しい地生ランとして親しまれている。オーストラリア南東部の限られた地域にしか自生していないが，現地では栽培容易で増殖率も良いようである。秋から早春にかけて生長し，葉の展開終了後に開花する。当園では先述のように凍らない程度の保温をしているが，同じ広島市内の軒下で栽培している例もある。この場合，未開花ながら，短期間ならば雪を被っても枯死しないそうである。今後は，無菌播種による増殖を試みるほか，色変わり品や近縁種を導入して展示に供する予定である。


Diuris punctata